

MESSIAH

'84 メサイア

指揮 箕輪久夫

ソプラノ 丸山正子

アルト 山田幸子

テノール 山形忠顕

バス 藤平久志

合奏 上越メサイア合奏団

合唱 上越メサイア合唱団

1984. 12/23(日) 2:00 PM

上越文化会館 大ホール

入場券 ¥1,000, 高校生以下 ¥500

主催 上越メサイア演奏会実行委員会

指揮者、独唱者紹介

- 箕輪久夫** 東京芸大音楽学部声楽科卒。渡辺高之助氏に師事。グループナーベ会員。リサイタル数回、メサイア、第九の合唱指揮。合唱団アルスノバ主宰。現在一新潟大学教育学部助教。新潟県合唱連盟理事長。新大室内合唱団主宰。
- 丸山正子** 新潟大学芸能科卒。篠田正敏、岡部多喜子氏に声楽を、三瓶十郎氏にバロック作品演奏法を師事。54年イタリア国立ヴェルディ音楽院留学。56年同音楽院声楽科を首席卒業。以後同音楽院助手。57年10月帰国。
- 山田幸子** 昭和58年3月 新潟大学教育学部特別教科音楽教員養成課程ピアノ科卒業。ピアノを佐藤峰雄氏、北川暁子氏に師事、声楽を山形忠顕氏、箕輪久夫氏、永沢亀氏に師事する。現在、上越市立直江津中学校教諭。
- 山形忠顕** 二期会正会員。1962年、「第九交響曲」のテノール独唱でデビュー以来、全国に亘って演奏多数。東京芸術大学大学院オペラ科卒。柴田睦陸、秋本雅一朗、N・ルッチ、G・ビュッシュ氏に師事。上越教育大学助教。
- 藤平久志** 上越教育大学大学院在学中。二期会準会員。高橋大海、宮本昭太、山形忠顕各氏に師事。オペラ「椿姫」「魔笛」等、多数出演する傍ら、宗教曲やリートの分野でも活躍中である。第19回新潟県音楽コンクール知事賞受賞。

上越メサイア演奏会実行委員会

委員長	山形 忠顕	事務局	阿部 一郎	井上 脩司
			岩沢 和子	龍島 圭二
			西山 工三	渡辺 みほ

オラトリオ

メサイア について

G. F. HANDEL (1685~1759)

メサイヤの語源は「油をそそがれたる者」つまり「神から選ばれたる者」「悩める者の解放者」を意味しており一般的には「救世主」と訳されている。歌詞は全て聖書にもとづいており、キリストの一生に対する深い宗教的感動を訴えかけている。

構成は3部から成り立ち、第1部はキリスト降誕の予言とその実現を表わし、第2部はヘンデル自身涙をもって書いたといわれるキリストの受難に始まり、主を讃えた「ハレルヤ」の合唱に終る。第3部はキリストの復活と永遠の生命をうたい、「アーメンコーラス」で終結する。

作曲は1741年アイルランドの首府ダブリンからの依頼で8月22日から、9月14日までのわずか24日間で非常なる神速さをもってなされたものであり、その初演はヘンデル自身の指揮によって大成功を収めた。またロンドン初演では、ジョージ2世が、「ハレルヤ・コーラス」で感動のあまり立ち上り、聴衆もそれにならったと伝えられている。

ヘンデルは1753年には白内障のため失明したが、毎年、孤児養育院のために行っていたメサイア公演も自らオルガンで指揮を続けていた。彼は死に至るまでに34回これを指揮しているが、1759年4月6日やはりオルガンによって「メサイヤ」を指揮して後、突然の発作に倒れ、4月14日聖土曜日の朝に静かにその生涯をとじた。